

第 4

将来都市像

遙か西方に八甲田、市南方には階上岳を望み、朝日昇る太平洋に面した豊かな大地に、わたしたちのまち「八戸市」があります。悠久の歴史のなかで、先人たちがこの地にまちを築き、そして当市は北東北の中核都市として発展してきました。

これからの時代を展望したとき、「北」の地理的・気候的・歴史的な優位性に目を向け、北東北随一の産業集積、陸・海・空の交通拠点性、恵まれた自然環境を背景に、北海道や東北地域におけるにぎわいあふれる「**中核都市**」として、当市のさらなる発展が期待されています。

そのためには、当市の「**魅力**」である自然、歴史・文化、産業集積、交流拠点性などの地域資源をフルに活用し、まちの「**活力**」となる当市の産業・文化の創造を進める必要があります。

また、こうした「**魅力**」に磨きをかけるとともに、「**活力**」を生み出していくのは、市民一人ひとりの知恵と力を結集した「**市民力**」です。まちづくりの実践を支える「**市民力**」こそ、次代の八戸を切り拓いていく原動力となります。

このようなことから、これから10年のまちづくりのビジョンとして、また、次代を担う郷土の子どもたちに引き継ぐ八戸づくりのビジョンとして、「海と大地が響きあう北の中核都市～魅力・活力・市民力 あふれる力が次代を拓く～」を当市の将来都市像に定めます。

海と大地が
響きあう
北の中核都市

～魅力・活力・市民力 あふれる力が次代を拓く～